

アスマーク

4197・100株

12月4日

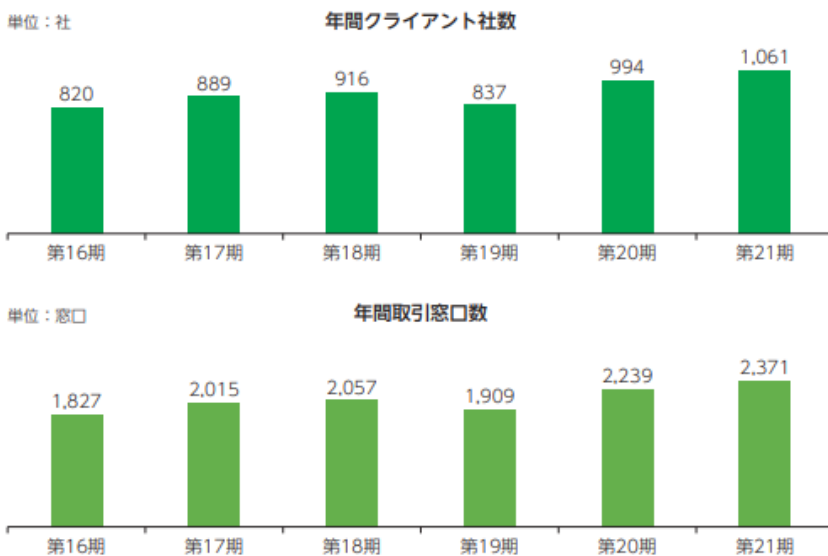
東証スタンダード上場

マーケティングリサーチ・市場調査を手掛ける

国内には多くのアンケート調査会社があるが、同社は良質でバランスの取れた自社パネルを有することに特徴を持つ。全国約100万人の市場調査に協力するため自社パネルを中心に、20社以上の国内提携パネルとの連携により、約1,700万人以上の潤沢なパネル数を保有する。幅広いパネルを有していることで属性に偏りのない調査ができる。また性年代別にバランスが取れたパネル構成となっており、在日外国人モニターも保有し海外パネルも使えるため、国内外の調査が実施可能である。

クライアント数、取引件数は緩やかに増加傾向

同社サービスを利用する顧客は、調査会社、広告代理店、一般消費財メーカー、マスコミ関連企業等がある。2022年11月末現在、クライアント社数は1,061社、年間取引窓口数は、2,371窓口となり、緩やかな拡大傾向にある。



クライアント数の推移

期	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期
決算年月	2017年11月	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月
クライアント社数 (社)	820	889	916	837	994	1,061
クライアント窓口数 (窓口)	1,827	2,015	2,057	1,909	2,239	2,371

アスマーク

4197・100株

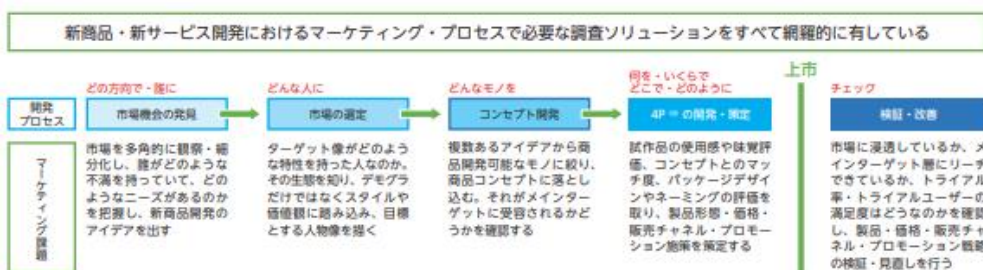
12月4日

東証スタンダード上場

アスマークのマーケティング・リサーチのポイント

一般的に企業が、新商品・新サービスを開発する際には、マーケティング・プロセスと呼ばれる過程を経て、世の中に販売(上市)される。どの市場(市場機会の発見)、どんな人に(市場の選定)、どんなモノを(コンセプト開発)、何をいくらで、どこでどのように販売すれば消費者に受け入れられるかを検証することが重要となり、上市した後のプロモーションの効果検証、改善についてもマーケティング・プロセスの一環となる。

同社では、そのマーケティング・プロセスにおいて必要な解決方法をすべて網羅的に有しており、顧客のマーケティング課題に合わせて、課題整理、調査企画・設計、調査実施、集計・分析、レポート作成に至るまで、リサーチの川上から川下まで、マーケティング・プロセスにおけるトータルサポートを可能にしている。



柔軟なオペレーションと、網羅性のあるサービスの特徴としており、揺るぎない顧客基盤を形成している。多種多様な業界との取引実績として年間取引社数は2022年11月期実績で1,061社となり、信頼関係に裏付けられたリピート率は95.3%になっている。

ポイント1、国内有数のパネル基盤

マーケティング・リサーチ事業の重要な事業基盤として、国内100万人超の自社パネルと国内約1,700万人のパネルネットワークを対象にリサーチが可能なこと。

ポイント2、網羅的かつ広範囲なりサーチ・ソリューション

定量調査、定性調査を問わず、マーケティング・プロセスの全てに関わる調査ソリューションを保有する。

ポイント3、豊富なりサーチ人材

定量・定性それぞれの分野に精通したリサーチャーを始めとして、モデレーターネットワーク及び業界トップクラスの機縁ネットワークを有す。また顧客要件に合わせて、柔軟な実査カスタマイズを可能とするオペレーションを提供している。

アスマーク

4197・100株

12月4日

東証スタンダード上場

マーケティング・リサーチの事例

<商品開発における調査企画・設計の事例>

調査全体の企画(アウトライン)

会社情報:ヨーグルトメーカー

背景:ヨーグルトの売れ筋商品の売上が鈍化してきたので、ヨーグルトの現状にはない新しい価値(使用用途)が見出せないか調査してみ、新市場に商機があるか確認したい。

調査目的:ヨーグルトの実態を把握し、新たな市場創造のヒントを得ること。

調査全体のイメージ

全体的な調査の流れとしては、まず第一にWebアンケートを行い、全体的な傾向を定量的に把握。次にアンケートの結果から定性調査に参加してもらう人を選定し、調査の協力を得られた方に対して日記調査を行い、実際の生活シーンの中での製品の使用シーンや目的といったことの実態を把握する。最後にインタビュー(定性調査)を実施。この事例ではグループインタビューとなっており、テーマなどに応じて1対1の個別インタビュー(デプスインタビュー)を行うこともある。インタビューでは、アンケート・日記調査の結果をもとに、より内容を深掘りする。

【フェーズ1】Webアンケート

初めに行うWebアンケートは、調査種別でいうと「探索的調査」になる。市場や消費者の理解を深めたり、新たな仮説やアイデアのヒントを得ることを目的とする。量的なデータを取ることで、市場や対象となる消費者全体の傾向を把握する。

スクリーニング設問で対象者の絞り込みを行い、絞り込んだ方たちに対して本調査設問を回答してもらう流れ。

スクリーニング設問は、性別・年代・居住地などの属性情報を聴取。その他に、調査を行う既存製品または競合製品の使用(喫食)頻度、自社・他社ブランドの認知やイメージを聴取し、対象者を絞り込む。その後の本調査設問では、より具体的な製品の使用(喫食)シーン、その時の気持ち、購入場所をはじめ、製品の新たな価値の発見につながるような項目も入れる。

アスマーク

4197・100株

12月4日

東証スタンダード上場

マーケティング・リサーチの事例

【フェーズ2】日記調査

フェーズ1で実施したクラスター分析の結果を用いて、ヨーグルト単体を食べる「喫食者」とヨーグルトを料理に混ぜたり顔パックとして使用する「活用者」に分けて、まずは日記調査を実施。グループインタビューの前に日記調査を行うことで、日ごろの日常の行動や考えを具体的に知ることができる。グループインタビューでの口頭での説明だけではうまく伝わらないことも、写真やその時の気持ちなどのコメントがあることで、理解できることもある。また、第三者が写真を見ることで新たな発見が生まれることもある。日記調査では、喫食者グループ、活用者グループそれぞれの対象者に、「いつ」「どのように」「どのような目的」でヨーグルトを消費したのかを記録をつけてもらう。

【フェーズ3】グループインタビュー

最後にグループインタビューを行う。Webアンケートや日記調査の回答結果を基に、それまでの調査では得ることができない具体的な意見や考えを得ることを大きな目的として実施する。

【調査全体から見えたヨーグルトの新価値の方向性(結論)】

ヨーグルトの特性(乳酸菌、ビタミンやカルシウムが豊富)を活かし、た手軽に様々な料理に使える顆粒ヨーグルト、肌に直接塗れるパック専用ヨーグルトなどが示唆された。

アスマーク

4197・100株

12月4日

東証スタンダード上場

中長期の業績見通し

23年11月期業績予想を含めたこれまで4期の売上高平均成長率は11%。同4期間の経常利益率は、赤字となった20年11月期を除くと平均で6.8%になっている。

国内マーケティング・リサーチ市場は、2020年までの5年間の平均成長率が2.5%程度とみられ、ある程度成熟した市場となっており、同社の成長性についても安定的な成長が見込まれる。

なおマーケティング・リサーチ業界の大手企業としてはクロス・マーケティング、インテージホールディングス、マクロミルがあげられ、これら類似企業の過去数年の売上高平均成長率は1%~12%となっている。経常利益率に関しては、類似企業同利益率は10%前後であり、規模の拡大により遡増が期待される。

決算期	売上高	業績推移 (百万円・%)				
		伸び率	経常損益	伸び率	純損益	伸び率
2019/11	2,991	—	155	—	122	—
2020/11	2,561	-14.4%	▲ 90	—	▲ 130	—
2021/11	3,354	31.0%	225	—	196	—
2022/11	3,892	16.0%	318	41.6%	178	-8.9%
2023/11予	4,364	12.1%	318	-0.3%	208	16.3%
2023/8 3Q	3,215	—	300	—	215	—
予想EPS/配当	単独：191.71円/0.00円 ※予想EPSは上場時発行済株式数で試算					

アスマーク

4197・100株

12月4日
東証スタンダード上場

免責事項(ディスクレーマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなるを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号

株式会社フィスコ

電話:03-5774-2443(情報配信部) メールアドレス: support@fisco.co.jp